

## 第2回まちづくり戦略ワーキンググループ 議事要旨

日時：令和3年12月16日（木曜日）13時30分～15時30分

場所：県庁4階大会議室・オンライン

### （1）事務局説明

- ・ ①居心地よく個性的な市街地、田園地域づくり、②官民連携によるまちづくりや社会課題解決の推進の2つの課題に対する第1回ワーキンググループでの委員からの意見や提案に基づき検討した具体的な施策案を説明

### （2）委員の主な意見

- ・ 富山県が全国に先駆けて、自分たちの町を外にうまく開きながら、同じく自治意識とか関係性を強くしていくような、開くまちづくりを標榜するといいいのではないか。
- ・ 外に開くためのビジョンと体制を作り、それを実現するための外部共創という視点と、官民連携の仕組みをしっかりと持つことが重要。
- ・ 地域にある課題を積極的に外部に開き、外部の企業などの資本やノウハウ入れつつ、地元主体で、地域を再開発するノッカル朝日町のようなモデルが増えるとよい。
- ・ 県民がよく、富山には何もないということについて、ネガティブに語られるケースが多いが、実は富山のことをすごく愛していて、近所付き合いの中でもすごく親身になってもらえるということは、他の県ではない魅力だと思う。
- ・ 先ほど自分たちの町を外に開くという意見があったが、観光客や移住者を受け入れ過ぎてオーバーツーリズムにならないような、最適な量と呼ぶという意識を持って施策を作っていく必要がある。そういう意味では、どの町がどれくらいの適正値があるかというのはKPIとして設定するべき。
- ・ それぞれの施策は外向けに対してのものが多く、同時に地域の人とその地の魅力を改めて知る機会を作っていく必要がある。
- ・ まちづくりを具体的に実行していくときには民間と行政の役割をうまく切り分けてリレーションを図る必要がある。
- ・ 未来を築いていくとか本当の意味で持続可能なまちをつくることを考えるのであれば、例えば人材の育成とその仕組みの作り方だとか、未来に向けたまちに何が必要なのかという議論をすべき。
- ・ もう少し生々しく、世代も超えてこういう話し合う場を設けたい。
- ・ 県が支援すべき対象は二つだと考える。本当にやる気ある地元地域の主体者と課題解決のリソースを持った第三者の民間企業等。
- ・ 新しい未来に向けて取り組んでいる人の数が圧倒的に足りないと思う。ここにいる委員の皆さんだけでたくさんの成功事例があるが、その数を増やすことをやった方

がいいと考える。

- ・ 例えば、ジソウラボやみらいまちラボのように自発的な集団ができているわけで、それを全15市町村に県庁職員を派遣して立ち上げる。コミュニティマネジメントはコストかかるので、県庁職員がサポートしたり、場合によっては補助金を出してもらえばいいと思う。
- ・ とにかく富山で何か起きているぞと感じられるようにチャレンジの総量自体を増やしていかないと新しいことをやっている人が悪目立ちする状況になってしまう。総量が増えれば若い人がチャレンジし易くなる。
- ・ eスポーツについては、もうすでに富山県の方では3年ほど前から、各市町村が主体的になって補助事業などの仕組みができている。高齢者についてもeスポーツを広げていく話があったが、その動きを持続していくためにそれぞれの市町村も含めてやっていく中で、普及面は意外と広がりつつあるが、何か突き抜けたアイデアを一緒に探していきたい。
- ・ 活動をするにはやっぱり資金が要るので、県の支援があればそういった活動がより加速的にうまくいくだろうし、他の地域も、それだったら自分たちもやろうかなと、活動グループを作るためのハードルは下げられると思う。
- ・ 実際に朝日町も、勉強しながら一生懸命やっている。そういった団体がいっぱい出てくれば、よりボトムアップできると思うので、まずは種をつくることも大事だし、具体的な施策の要望は、実際にダイレクトに県職員がそのグループに入って、直に意見を施策に反映できれば、よりスムーズにいくと思う。
- ・ 同性パートナーシップ制度等、そういうところも含めてまちづくりなので、もっと進めていただきたい。制度を作る際は、他県に先駆けて作りましたとかではなく、何のために制度化するのかというビジョンを同時に作っていく必要がある。
- ・ 今回の委員の皆さんの話でいうと、県の人がコンシェルジュをやらなくてよくて、地域の方々にちゃんとコンシェルジュで、しかも次世代をつなぐ人を育てればいいので、そこに対する県の投資というのは必要だと思う。まちづくりは人がそこに内在して初めてスケールするとすれば、重要なのは人を育てることであり、今回、関係人口1,000万人のウェルビーイングという大きな題目を掲げたのであれば、徹底的に次世代の人に投資するということ、予算を割くということに持っていくと、必然的にまちづくりになるんじゃないかなと思う。
- ・ 今回、メンバーに富山出身或いは富山在住の方が結構いるので、そういった視点で富山らしさについて議論が必要だと感じる。
- ・ 空き家の活用というワンフレーズは前回出ていたが、ぜひその解決策として広くとらえ欲しい。例えば、サテライトオフィスワーケーションも手法の一つとしてあっていいと思うし、もっと多様な、富山の特徴を出すとする、例えば富山型デイサービスと空き家は親和性があって、これこそ富山らしいなと思う。

- ・ 官民の連携の中間で、県が作るシンクタンクをぜひ、富山県に設置してもらいたい。そこでは官民と線引きをせずに、みんなで自由に、考えを持ち寄る場のような、社会課題を解決する場が必要だという意味のシンクタンク。民間事業者がビジネスをする前の社会課題を解決するには、過度な負担を強いられる。社会起業家が育つためのバックアップ体制をシンクタンクでというようなイメージで前回提案した。
- ・ 過去からの人々が守り繋いでくれた町を如何に責任を持って後世に繋ぐか。それが公の目線だと思う。それには再投資のサイクルが必要で、その町を今預かっている人が次に守りつなぐために再投資してくれる、地域を愛する人の人的資本をちゃんと地域に投資することが必要。中の経済還流は県の予算だけでは難しいところがあるので、資金的な投資を外からどう持ってくるかを、PFI 等様々な形で、宣伝していくのが大事。
- ・ 官民連携は立場を越えてお互いを理解することが起点だと思う。そういう観点を持ちつつ、県の方で新しい分野で、ひとつの成功事例を率先して作っていくと全県的に励みになる。